

アマダイ通信NO. 97

(Tile fish network letter)

2013年ヤブラン咲く

知人・友人各位

2020年オリンピック開催地が東京に決定、晴海の我が家の真ん前に選手村が築かれ、空地が目立つお台場には競技場も造られます。震災復興が本格的に始まり、来年からはリニア新幹線の建設も。その上、オリンピック関連工事も始まる。一貫して縮小して来た建設需要の急激な膨張は、社会に色々な歪みももたらさそうですが、20年続いたデフレに終止符を打ち、日本経済が活力を取り戻す機会になればと思います。

◎湾岸にティッシュ舞う

オリンピックで建設ラッシュに見舞われそうな豊洲や晴海、月島界隈の東京湾岸だが、今でも高層マンションの建設でタワークレーンが林立。大量供給されるマンションを売りさばこうと、デベロッパーはあの手この手。豊洲や勝どき、月島駅前でチラシ入りのティッシュペーパーを撒き、宣伝に努める。

一昔前はサラ金がティッシュペーパーを大量に撒いて宣伝に余念がなかったが、金利規制が強化され、過払い利息返還請求も活発で経営が苦しくなり、武富士などの大手も倒産すると見掛けなくなった。そこまで経費をかけられないということだろう。ティッシュペーパーを宣伝のために無料で配るのは、日本独特の風物らしく、海外では見掛けない。

日本では駅やショッピングモール、学校や役所など、公共の場のトイレには紙が備えられ、困ることはない。だが海外では公共施設のトイレにもペーパーがないことが多く、一袋のティッシュペーパーに救われることも多い。フィンランドのヘルシンキでの経験だが、ショッピングモールのトイレに紙があっても、チップトイレだとその国の硬貨がポケットにないとお手上げだ。中国の大同で実際に経験した怖い話だが、マックやケンタッキー、ウォールマートの入った大きなショッピングモールでサインを探し探しようやくたどり着いたのに、モールのたった一つ！のトイレの入口に、コンクリートパネルが打ち付けられ、入れなかった。駐車場のあちこちに、人間の排泄物が転がっていても、中国人のマナーが悪いなどと、非難できない。

オリンピックは、今や公共のトイレでもペーパーだけでなく、ウォシュレットも普通に備えられている素敵な日本のトイレ環境を世界中の方に楽しんで頂き、食文化だけでなく日本のトイレ文化も世界に輸出するいい機会だ。東京への修学旅行で初めて水洗トイレに遭遇した中学生、陶器製の水洗タンクを収納した木箱からぶら下がった鉄鎖を引っ張って、和式便器に横たわる分身をようやく流したはいいが、流れ落ちる水が止まらないのに驚き、何度も鎖を引っ張っても水は勢いよく流れ続け、壊してしまったと青くなったのは、思えば前回の、東京オリンピックの少し前である。

◎大雨なのに水がない！

震災記念日の9月1日、豊洲に建設中の超高層マンション SKYZ の大型折り込み広告。

免震構造、配電盤やポンプ等の入る機械室も低層階を避け上階に設置、自家発電設備を備え、3日分の電力自給が可能という。東京直下型地震と津波に備えた仕様だ。三井不動産、東京建物、三菱地所、東急不動産、住友不動産、野村不動産の大手デベロッパー6社の合作だから、これがこれからの日本のマンションの標準仕様だ！という宣言だ。ただ欠けているのが、水の確保。大きな地震がくると、浄水場は大丈夫でも水道管は切断、数ヶ月は断水する。そこまでいなくても、震度6くらいの地震だと、被害を小さくするために配水を止めるが、その復旧に一週間や10日はかかる。それへの備えはどうぞご勝手に！というのは如何なものか？

この夏、山陰や東北は集中豪雨が続き、土砂崩れなどの被害が続出、河川からの取水が出来ず、家庭や病院の水が不足し困った。特に浄水を大量に必要とする人工透析の患者は、他所の病院で透析するなどしたが、週に3晩透析、昼は仕事に励む患者には大きな負担。東北大震災の時も津波を免れても地震で浄水場が壊れ、配管が各所で切断、水道が長期間断水した。水がなければ風呂はおろか、煮炊きも出来ず、トイレも流せません。病院では手術も出来ません。他方関東では水源地の奥利根に雨が降らず、ダムの水位が下がり、19年振りに10%の給水制限をしましたが、実害はありませんでした。

一方は集中豪雨、他方は雨不足と、水不足の理由は正反対のようですが、実は根は一つ。ダムに貯めて使うか、直接浄水場に引き込んで使うかは別にして、水源を河川にだけ頼るから。大雨になって浄水場の処理能力を越えて泥水が流れ込めば、川からの取水を止めざるを得ません。ダムに流れ込む河川の流域に雨が降らなければ、渇水となります。浄水場の段階で複数系統の河川から引水する、井戸からも揚水するなどして、水源を多重化すれば、リスクを分散出来ます。又、病院や大学、商業施設、大型複合ビルや駅ビルなど、大量に水を使う施設でも、敷地内に井戸を掘り、膜濾過などの浄水設備を設置、水道を二元化すれば、地震にも集中豪雨にも負けず、事業継続性を高められます。大口ユーザーの水道料金が一般家庭の倍近くの日本では、水道料金も大幅に削減でき、ビジネスチャンスも生まれます。●が営業を手伝う電源開発の井水利用専用水道システムを利用すれば、リスクフリー、初期投資なし、メンテナンスコストゼロで水源を二重化、事業継続性を高め、水道料金も大幅に削減できます。

◎鯨？マンボウ？甘鯛激突！・・・スキューバより素潜り

我が家の真向かいには中央区の清掃工場と、余熱利用の区の温浴施設、ホットプラザ晴海。温水プールがあると思って、お盆休みに勇んで飛び込むが、温水の小さな流れるプールやジャグジーのみ、文字通りの温浴施設でがっかり。ただ65才以上は他に四ヶ所ある区立の温水プールも無料で利用できるとのことで、無料入館証を貰う。翌朝、NHK連続ドラマあまちゃんを見た後、月島駅前まで10分ほど自転車を走らせ、海士になる。開閉式のプールの天井が開き、陽の光が射すと、プールのさざ波が水底で光の波に姿を変え、美しい。夏の日本海の、海藻揺らめき、小魚群れ泳ぐ、白砂の海底の、光の煌めきを思う。

足馴しで25mプールを徒歩で2往復、時々潜りながら、更に10往復泳ぐ。素潜りも25mプールの真ん中まで出来る。海なら5m、10mくらいは潜ってサザエやアワビが獲れそう。その後も週末は月島のプールへ。600、700、800mと距離を伸ばす。毛沢東も水泳が好きで、習近平も千m泳ぐという。●は産まれた時から海の中で、泳ぎを教わったことはない、

全くの自由型。10分で200mとペースは遅いが、1000mは行けそうだ。

素潜りも25mプールの真ん中の青いラインを越えて、残り5mのピンクのラインまで届くので、20mは出来そう。🐙は背中の中のボンベの酸素を使い、ゆっくり潜水、ゆっくり浮上するスキューバよりも、体内のボンベに蓄えた酸素を使い素早く潜り、息をつめてアワビやサザエを捉まえ、海底を蹴って急浮上する素潜りがいい。もっともプールで浮上する時、巨大浮遊物体に激突したが、あれは鯨だったか？マンボウだったか？

◎キャリア積み、「大地を包む」

朝日新聞二面「ひと」欄に、西洋美術館館長になった日本女子大の馬淵治子教授のなつかしい顔写真付きの紹介記事。東大全共闘の主力、駒場共闘と一緒に戦った仲間。駒場の第八本館に立て籠って大学と民青による兵糧攻めにあった時も一緒。文学部に進学、美術史を学び、日本女子大の先生になったことは、風の便りに知ったが、その後交わることはなかった。「象牙の塔」に反旗を翻し、「教授」を専門馬鹿となじって攻撃したのだから、大学でキャリアを積むのも結構大変だった筈。変えようとして変えられなかった社会に、背を向けて生きてきた🐙には知る由もないが。

駿台予備校中山寮同期の、日本を代表するアートディレクター、北川フラム君から来ていた越後妻有ビエンナーレや瀬戸内国際芸術祭の案内を開封する。十日町での『『大地を包む』展～繊維からの再考～』の案内も。吊れ合いの故郷の小千谷紬も然りだが、魚沼は米だけでなく織物の里で、十日町には服飾専門学校もある。昔は我が家でも蚕を飼って真綿や絹糸を紡いだり、苧（カラムシ）を栽培、その皮の繊維で下駄の鼻緒を作ったりしていたが、織物は見たことがない。紡ぎはしても織ることはなかった。同じ雪国でも、越後は大消費地江戸・東京に近いからか？空気を運ぶような米菓もそうだ。佐藤の切り餅、越後製菓、浪速屋、亀田製菓は秋田にはない。

朝日も、日経も届かない新聞休刊日、コーヒーを飲みながら新聞を捲る、至福の時がないのは寂しいが、朝日新聞土曜版 be (8月10日)を未読なのに気付き手に取ると、見慣れた友人の顔。🐙通信の読者？フラム君。東京芸術大進学後、全共闘運動に参加、集会やデモでよく姿を見かける。象牙の塔を飛び出し、壁画工房や鉄板焼店、映画作り、アパートヘイト反対の世界中の美術家の作品のトラックによる日本巡回展を開催するなど、芸術界でキャリアを積み、今や日本を代表するアートディレクター。越後妻有や瀬戸内だけでなく、白神の海と山こそ、彼が「美術で笑顔を」創り出すのに相応しい舞台だと思うのだが、故郷の首長の皆さん、如何でしょうか？

◎ブルーハワイ白瀑イン大阪

お盆休み明け、久しぶり大阪へ。新幹線の橋桁鋼板巻補強、脱線防止レールと梅小路鉄道博物館、広島鉄道病院建替、新大阪駅井水利用専用水道など、営業中のJR西日本案件も多い。となれば今宵の暑気払いはJRに金を落とさなければ。三鷹寮の2年先輩で、JROBの池上さんが監査役をする大阪駅上の、ホテルグランビアのレストランへ。

生ビールの後、お客様如何ですか？と勧められたのがブルーハワイ。なんだこれは？ラベルに白瀧とある。おまけに赤城乳業のガリガリ君の青と同じ植物由来の色素を使っているという。故郷八森の酒蔵が、旧知の井上さんがオーナー社長の赤城乳業のガリガリ君と

同じ色素を使っつくったという。飲まない訳にはいかない。大阪で故郷の旨い酒を飲めるのは嬉しい。

可愛いお嬢さんが注いでくれた純米吟醸は、グラスに一滴インクをたらしたような、淡い藍。ブルーハワイというよりは、世界遺産白神山地の十二湖の、青池の神秘のアオだ。吟醸酒だからかフルーティで口当たりがよく、ほのかに甘い、飲むほどに、酵母の醸す香りで口中が満たされ、「上善水の如し」をモットーとする白滝酒造を代表とする、新潟の水の如き酒とは違う！田舎の酒蔵も頑張っている！と加藤町長にメールをすると、ガリガリ君は藻のスピルリナの色素だが、ブルーハワイはクチナシの花の天然色素だという。

◎故郷を生薬の里に！

この夏、新宿のワシントンホテルで 30 回目の八森中学校の同期会。冒頭で龍角散の加賀君が、故郷八峰町で昨年からはまった生薬栽培プロジェクトが、順調に進んでいることを報告。センキュウ、トウキ、ウイキョウ、カンゾウ、センブリなどの薬草を 4810 平米で路地栽培、2200 平米でキハダ、クヌギ、ホオノキなどの薬樹を植樹。加賀君を焚き付け（一緒にしゃぶしゃぶをご馳走になっただけ！？）、加藤町長に繋いだ🍷も若干の貢献。生薬原料の一大産地は中国だが、中国、韓国の経済発展で需要が増え、人件費アップで、輸入価格も上がり、日本に入って来ない恐れも。シェアトップの津村は独自に栽培、龍角散が中心の東京生薬委員会は八峰町と提携、龍角散が栽培原料の買い取りを保証。

三鷹寮一年先輩の井原さんがオーナー社長の日野製薬も、百草丸などの伝統薬の材料調達に気を遣う。故郷と井原さんの木曾御岳を結びつけられないか？

◎中国経済の高度化と人材の高度化

東大北京事務所長を務める駒場の中国語クラス同期で、三菱商事 OB の宮内雄史君が 5 月末に一時帰国、新橋の国際善隣協会の「アジア研究懇話会」で、最新中国事情につき講演。中国語クラスの仲間が他に 4 人、寮関係者も、城西国際大学長を務める柳沢伯男元金融大臣等 2 名が参加。

折から、鬼城（ゴーストタウン）や影の銀行、理財商品などの問題が顕在化、日本を上回る速度で少子高齢化が進む中国の、経済減速化を語るエコノミストが多い。宮内君は大量の安い労働力に頼った「世界の工場」から、サービス経済化、経済の高度化が進めば、毎年 7 百万人が大学に進み、20 万人以上が海外留学する人材の高度化とマッチ、中国経済はまだまだ成長するという。

今、中国は大学生の就職難が続く。昨年ユニクロに就職、夏に来日、大阪、東京で長く研修を受け、神戸の店に配属された、南京大学から東大への交換留学生、呉さん。「ブラック」と囁かれるユニクロがきつ過ぎたのか？今年の春節に帰国したきり日本に戻らず、上海で求職活動中。仕事が見つからず、アルバイトのまま。経済の高度化と人材の高度化を中国は上手くマッチングできるのだろうか？それが出来ないと大問題だ。

植樹 20 周年黄土高原紀行（2012. 8. 19～25）（3）

⑥石炭で変わる

呉城村の次は大同県聚楽郷へ。大同の城区(市街地)の外れを抜ける。突然片側 4 車線に中央分離帯、側道に歩道のついた幅 54mの道路が真っ直ぐ伸び、両脇に工場用地が造成され、一部工場も完成している。間も無く iPhone の受託製造で有名な台湾の鴻海精密工業の中国製造子会社フォックスコンが、城区の人口百万人、総人口 3 百万人の大同市(各県含め)に安い労働力を求め、省都大源に続き一大工場を造る。六階建てのアパート群が次々に現れ、道路の上を市内環状高速道路や北京と内モンゴルを結ぶ高速道路と鉄道も高架で走る。ようやく骨組みの完成した屋根付きサッカー場を中心とした広大な運動公園、真新しい病院や大学が現れては消える。中心部に近くなると、20 から 30 階建ての高層マンションやビル群が次々現れる。

かつて 1.8 キロ四方に張り巡らされ、一部の土塁しか残されていない城壁を再現、奈良の平城京のお手本となった北魏の都平城の街並みを再現する計画。住宅から、デパート、ホテル、病院、学校、役所まで城内の建物という建物は全て壊し、新市街に移転する。城内には低層の灰色の瓦屋根とレンガ壁の平城京の古い街並みを再現、近くの世界遺産平遥の古い街並みを遙かにしのぐ規模の観光資源にするという。霊丘や広霊、渾源の県城の建築ラッシュにも驚いたが、大同の市街の変わり様には度胆を抜かれる。この 3、4 年のことだという。因みに石炭と電気の町大同で、石炭 1t の値段がかつて 20 元、その時は 800 元。大同は気が狂ったような変わり様。

そんな驚きを残したまま聚楽郷采涼山の「地球環境林」を見学する。🌳が初めて大同を訪れた 99 年にモンゴリ松の植樹を始め、なだらかな丘一带に、大きいもので樹高 4、5m に達する緑の森が果てしなく続く。所々大きい穴があいている所は間引いて街路樹用に出荷した松を掘った跡だ。3m くらいに成長した松が輸送費など込みで 1 本 1000 元、木だけで 700 元。采涼山に植えた松の面積は 230 ヘクタール。1 ヘクタール 3300 本。枯れたものもあるので、1ha3 千本として 230ha で 69 万本、1 本 7 百円で 4 億 8300 万元、ここだけでざっと 5 億元(60 億円)の現在価値があると、干場寮委員会の中村委員は算盤を弾く。

貧富の差を引きずったままとは言え、中国がここまで発展すると、日本で資金を集めて、中国で植樹するというのは難しくなる。これまでに得た技術や経験、人材、ネットワークを生かして中国の緑化、水資源の函養、貧富の格差の是正、日中友好に貢献するためには、自立した経営体として「緑の地球ネットワーク」は発展して行く必要があるのではないか？大同そのものが大きく変わりつつあるように。そのためには、日中合作で作ったこれらの緑豊かな森をどう生かすかが鍵となる。

⑦仏教遺跡かテーマパークか

5 日目は世界遺産雲崗石窟の見学。昨晚驚いた大同市街の変わり様を再確認しながら炭鉱の多い地区を抜け石窟へ。石炭を運ぶダンプが多い穴ボコ道も、遠い昔の話のよう。雲崗石窟の周囲もきれいに整備。お城のような入場門やそれらしい高僧の銅像、大きな寺や池も新しくつくられ、池にはいい雰囲気の木舟まで浮かぶ。石窟までたどり着くのに 30 分くらい、入場料 150 元。これくらい頂かないと元が取れないのか？初めての人にはそれらしく見えるだろうがやり過ぎ。これでは栄枯盛衰の歴史を感じさせる世界遺産ではなく、テーマパーク。彼我の文化の違いか？

平山郁夫画伯が愛してやまなかった敦煌の莫高窟にも比肩される雲崗石窟。武周山断崖

の砂岩を切り開いて築かれ、東西 1 キロメートルにわたる。主な洞窟が 53 あり、高さ数センチのものから 17 メートルのものまで、5 万 1000 体の仏像が彫まれる。AC460 年に開削され、494 年に北魏の都が洛陽(現在の西安)に遷都される前に大部分が完成した。一部で足場が組み、シートで囲われ、長年の風雨、戦乱で傷んだ壮大な石窟の「修復」が進められている。石窟と仏像にまで手が加えられるのではないかと心配する人もいる。

続いて城壁の中の華嚴寺へ。遼と金の時代の一宗派、華嚴宗の重要寺院の一つ。元代に焼失したが明の宣徳年間(1426~1435)に再建された。華嚴寺の伽藍より高い城内の建物は全て壊し、灰色のレンガ壁と瓦屋根の城郭都市を復元、近くの世界遺産、平遥古城をしのぐ観光名所にする、遣り手の若い市長が采配を振る。わずかに残った土塁の周りに灰色のレンガを積み、隙間に黄土を詰め城壁を再建、東西南北に門を作り、所々に城樓を構える。1.8 キロ四方の城壁も着々完成に近づく。平遥は道幅も狭く、ごちゃごちゃしていたが、広い道幅で、これが都大路というものか。もっとも上から見ると陸屋根で、空調の室外器などが置かれていると言う。「日本は私権が強過ぎ」と、羨望の声も。しかし、「公権力」が強過ぎ、私権が犠牲になるのも問題だ！

華嚴寺の後、地下ショッピングモールのウォールマートで買い物。十年物の汾酒(白酒)とお菓子で 150 元ほど買おうと思ひ財布を覗くが足りない。飲代込みのツアーで金は使わないと決め込み、両替しなかった。レジで master、VISA、AMEX、JCB と、持っている限りのカードを出すが見物。中国ブランドの銀連カードしか使えない。買い物を諦めトイレを探す。店内表示に従いレジの外で発見するが、板を打ち付け閉鎖、錠まで付けてある。広いモールにトイレヶ所ということはないだろう、と他を探すがない。モールの半分は専門店、マックやケンタッキーもある。そっちにもあるだろうと探すがない。深刻な顔をしたツアー仲間と会い、あらためて探すやほりない。日本人よりチャイニーズは腸が長くて貯溜機能が大きいのかと感心する？やむなく仲間は駐車場に消え、すっきりした顔で帰る。とりあえず念のため僕もと、広い駐車場の奥のバスの陰に身を隠し放水。左右を見ると、表面が空気に触れて変色した固形物が点在。腸が特別に長い訳ではないんだと納得。

⑧再開発の仕組み

ウォールマートでの買い物の後は宿泊先のホテル大同宏安国際酒店でカウンターパートナーの大同市総工会による歓迎宴。丸テーブルの上に置かれたしゃぶしゃぶ鍋を囲む。3 つに仕切られた大鍋の赤黒い鍋と、黒い鍋はいかにも辛そう。白い鍋で羊、豚、牛の肉と野菜や茸を頂き、小さい盃で度数の高い白酒を煽っては、薄い青島ビールで喉を労る。辛いのは苦手。日本の霜降り和牛や黒豚しゃぶしゃぶのマイルドな味が懐かしい。

都市再開発の際の土地利用権の売却が地方政府の大きな財源で、都市再開発に伴う移転や土地の取り上げが住民の反発をうみ、中国全土で大きな問題となっている。大同では住民移転用のマンションを先に作り移住させる。次に 2 年分の家賃を払い引越して貰った後で、取り壊した土地に建物を建てる。その次も同じようにするが、移転出来る貸家は少なくなり家賃が高くなるので、反対デモも発生したが、今は落ち着いているという。

日本と違い土地は国有、住民は土地使用権を持つに過ぎぬとはいえ、その使用権を取り上げ生活の拠点を壊す。補償をどうするか？補償原資をどう確保するかが鍵を握る。最初に移住用マンションを建てる種銭をどうしたのか聞くと、世界的な資源価格の高騰で

急速に値上がりした石炭関連ビジネスで財を成した「石炭長者」が提供した。既存と同じ60平米くらいの部屋に引っ越す場合はただで、それより大きい部屋に引っ越す場合は平米4万円出せばいい、歓迎だと、地方政府の職員だとは言え、屈託がない。三鷹の寮で2年先輩、国際貿易促進協会で日中貿易に携わった友岡さんが、流暢なチャイ語で対話を取り持ってくれる。

◎いまどき中国とのつきあい方・・・

東大三鷹クラブ第110回定例懇談会のご案内

一向に好転の兆しの見えない尖閣問題、相手国の印象がよくないと思っている国民が両国とも9割以上——ぎくしゃくしている日中関係ですが、こういったとき、どういったスタンスで中国と向かい合うべきなのでしょう。

今回は清川佑二日中産学官交流協会理事長（昭和36年入寮）と高見邦雄認定NPO法人緑の地球ネットワーク事務局長（昭和41年入寮）のお二人に、いまどきの中国との付き合い方について討論していただきます。異なる立場から中国へのアプローチを長く続けてこられたお二人ですが、ともに2度目の定例懇談会への登場です。

清川さんは昭和40年に通産省入省後、商務流通審議官、基礎産業局長を経て特許庁長官を最後に退官、その後、海外経済協力基金理事、東芝専務、更に日中経済協会理事長を経て、現在は日中産学官交流協会理事長をしています。日中協力の懸け橋として忙しく日中間を往来し、中国各地を訪問、多くの知己がいます。

高見さんは東大在学中から中国とかかわりを持ち、大学中退後も中国からつかず離れず、1991年に砂漠化した中国の黄土高原の緑化をめざす「緑の地球ネットワーク」を設立し、以来苦節21年、山西省大同市の黄土高原で活動をしてきました。これまでに植えた樹木は1,885万本、植えた面積5,812ヘクタール（2012年春現在）におよび、昨年は緑化に貢献した著名人を顕彰する「緑色中国年度焦点人物国際貢献賞」に、数少ない外国人2人のうちの一人として選ばれました。

植えっぱなしではなく、植えた後のケアを大切に、中国のパートナーによる現地事務所までおいた緑化協力は、数少ない成功例として、中国で全国緑化運動の大会が開かれるたびにモデルケースとして紹介され、中国全土から見学者が訪れます。

今回の顔合わせの実現は、ことしの春、清川さんが「緑の地球ネットワーク」が毎年、春と夏に実施している黄土高原緑化体験ツアーに参加したことがきっかけでした。片や経済の専門家から見た中国の制度と本音、こなた現地を這いずり回りながら住民との交流を積み重ねた緑化活動。建前論では進まない日中関係をどう打開していくか、縦横無尽にアイデアが展開されることを期待しております。

（昭和42年入寮 中村 英 記）

日時：平成25年9月30日（月） 18時30分～21時

場所：学士会館本館203号室（千代田区神田錦町3-28 TEL 03-3292-5931）

会費：5000円（会場費、夕食代・飲み物代、通信費など込み）

申込先：平賀・干場 FAX 03-5689-8192 TEL 03-5689-8182

（有）ティエフネットワーク Email：tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

二次会：別途 近くの中国料理店SANKOUEENで、講師参加で行います。

◎04年から12年入寮まで、世代横断、事務所で暑気払い

先日08年入寮の上田君が営業の相談で事務所に顔を出し、06年入寮の岡本君からは、仕事上のトラブルで相談を受けたり、94年入寮の国立劇場の西沢君とは三鷹クラブの観劇会を実現したり、同じく94年入寮の久米弁護士からは米屋の菊太屋の顧問に紹介して頂いたり、「国際学生宿舎」以降の若い皆さんと、卒業後も付き合いが出て来ています。

そんな時に2009年入寮の北君、2010年入寮の大島君と、当事務所で暑気払いをしようということになる。そこで、2010年入寮以前の皆さんを中心に広く呼び掛け、出来れば卒業した皆さんとも定期的に顔合わせする場を作って行ければと思い、7月25日夕方、事務所で暑気払い。参加者は、

永田 達哉 (2004・浜松北)、上田 大斗 (2008・理Ⅱ・西大和学園)、北 祐輔 (2009・文Ⅰ・智辯和歌山)、阿南 紫帆 (2010・文Ⅲ・上野丘)、石田 翔太郎 (2010・理Ⅰ・尾道北)、伊藤 拓也 [楊 楊] (2010・理Ⅱ・清教学園)、大島 康彰 (2010・理Ⅰ・福岡)、大槻 美貴 (2010・文Ⅰ・仙台育英)、川端 啓豊 (2010・文Ⅰ・福大附属大濠)、小野寺 桃子 (2012・理Ⅰ・宮城第一)

☆法学部4年の大槻美貴(総務省入省予定)です!本日は楽しい暑気払いの席を設けてくださり、ありがとうございます。久しぶりに再会した同期や、初めてお会いする先輩や後輩と和やかに飲むことができ、とても楽しかったです。

また、社会で活躍する先輩方のお話を聞いて来年の春から一事務官として働く私も、後輩として恥ずかしくないよう、頑張ろうと思いました。これからも何かと干場様を始め三鷹寮のOBの方々にお世話になることがあるかと思いますが、なにとぞよろしく願い致します。(婚活も兼ねてのゆるやかな勉強会、実現したらぜひとも参加させていただきます!)それでは、本当にありがとうございました。またお会いできるのを楽しみにしております!

◎勝どきでばったり

95年入寮の杉本洋平君とお盆休みに勝どきでばったり。彼が卒業して以来初めて。友人宅でのホームパーティに行くところだという。早速一杯やることに。

東京海上アセットマネジメントに就職、辞めてヨーロッパ放浪の旅に出たことは、丁度一年ほど前、94年入寮の弁護士の久米君の呼び掛けで三井物産の高取、岡本君、東電の宮崎君、国立劇場の西沢君達と本郷赤門前のチャンコ屋、浅瀬川で飲んだ時に話題になったが、今回貰ったのは野村證券の課長の名刺。

旧制高校の伝統を継ぐ自治寮の東大三鷹寮が、東大三鷹国際学生宿舎に衣替えしてからの卒業生も30代後半、会社や役所でも課長や部長として、バリバリ活躍する年代だ。経産省の曳野君や法務省の西連寺君、総務省の西浦君、内閣府の平井君、Denaの山本君等、若者組ネットワークを広げられれば嬉しい。

◎終わりに

治癒する見込みなし、余命半年の、ステージⅢbの大腸癌も術後10年で完治。夜每一緒にお酒を楽しむ仲間もいて、涼を求めてプールではに変身する。薄れたとは言え、へそ下から鳩尾にかけて30センチの手術痕が未だに残り、大病されたんですねと驚かれる。同じように心にも青春の傷跡が残る。生きて来た証、原点として大事にしたい。再見!